

## 4月日銀会合のコンセンサスって何さ？

---

### ○現状の金融政策を維持

→3月会合で「金融政策の正常化」に踏み出したばかりなので当たり前

### ○展望レポートで物価見通しの引き上げ

→円安基調に伴うエネルギー価格や食料品価格の上昇、そして、ホテルなど宿泊施設を筆頭としたサービス価格の上昇などを考慮すると「上げて当然」

## 展望レポートって何さ？

### 【経済・物価情勢の展望（展望レポート）】

日本銀行は、年4回（通常1月、4月、7月、10月）の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表している。

先行きの見通しという意味合いでは、米連邦公開市場委員会（FOMC）が年4回（3月、6月、9月、12月）発表している「ドット・チャート」に似ている。

# 物価見通しの引き上げ？

## 2023～2025 年度の政策委員の大勢見通し

——対前年度比、%。なお、< >内は政策委員見通しの中央値。

	実質GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	(参考) 消費者物価指数 (除く生鮮食品・エネルギー)
2023 年度	+1.6 ~ +1.9 <+1.8>	+2.8 ~ +2.9 <+2.8>	+3.7 ~ +3.9 <+3.8>
10月時点の見通し	+1.8 ~ +2.0 <+2.0>	+2.7 ~ +3.0 <+2.8>	+3.5 ~ +3.9 <+3.8>
2024 年度	+1.0 ~ +1.2 <+1.2>	+2.2 ~ +2.5 <+2.4>	+1.6 ~ +2.1 <+1.9>
10月時点の見通し	+0.9 ~ +1.4 <+1.0>	+2.7 ~ +3.1 <+2.8>	+1.6 ~ +2.1 <+1.9>
2025 年度	+1.0 ~ +1.2 <+1.0>	+1.6 ~ +1.9 <+1.8>	+1.8 ~ +2.0 <+1.9>
10月時点の見通し	+0.8 ~ +1.2 <+1.0>	+1.6 ~ +2.0 <+1.7>	+1.8 ~ +2.2 <+1.9>

# ここ一カ月の植田日銀総裁の発言って結構踏み込んでるべさ？

4月23日、

「物価見通し2%の達成期間、現時点では25年度にかけてと想定」

「**基調的な物価見通し**が下振れた場合、具体的な対応を予めいうのは難しい」

4月19日、

「**米経済は為替レートなどを通じて日本経済、物価に影響**」

4月10日、

「3月会合にて、物価目標実現が見通せる状況に至ったと判断」

「**円安によって2%の基調的物価が上昇すれば、政策変更を考える**」

「為替が動いたからといって、直接的対応として政策変更することは全くない」

「当面は緩和的な金融環境が継続すると考えている」

4月5日、

「基調的な物価上昇率は今後、徐々に高まっていく」

「事前に特定の関係者に情報を伝えることは適切ではない」

「**市場の投機が円に影響した可能性**」

「**為替はファンダメンタルズ反映し安定推移が重要**」

「**2%目標達成に向けた確度がさらに高まれば利上げ検討**」

3月29日、内田日銀副総裁

「マイナス金利解除事前報道については「リークではなく、コミュニケーション」」

## 4月日銀会合のサプライズって何さ？

---

### 【植田日銀総裁が記者会見で「為替の円安是正」を匂わす発言した場合】

- 「為替政策は財務省マター」と最初言っていた植田日銀総裁が最近、為替に積極的な発言を行っている
- 利上げを匂わす発言が増えており、市場は「円安是正」つまり口先介入なのか勘繰っている
- なりふり構わない口先介入の現状か？